

**目的** 和服は、日常着としての着用が少なくなり、大学で初めて和服について学ぶ学生は、和服用語を覚えるのも難しいと感じる学生も多い。平面構成の中で、比較的煩雑とされるしるしつけと、柄合わせ作業にパソコンを導入することにより、被服構成の授業に関心を持たせ、実習効率を上げたいと考え、本研究を行った。

**方法** しるしつけは、パターン使用によるしるしつけを導入するため、自動製図プログラムを構築し、それにより作図したパターン使用と従来の方法との比較を作業時間や正確さなどについて被験者 23 名により実験を行った。柄合わせ作業については、各自の反物の一型をデジタルカメラで撮影しパソコンに取り込み、一反に展開させて画面上で裁断を行う方法である。裁断例は 17 種をプログラムに組み込んだ。各自の寸法を入力し、裁断例を選択して、各布の繰り回しを画面で自由に再現できるソフトの開発である。

**結果** 自動製図によるパターンは、各自の身長、腰囲、ゆき寸法を入力後、約 15 分で出力可能となり、そのパターンを使用してのしるしつけ作業は、従来の方法に比べ、42～69%の時間が短縮となり、特に身ごろのしるしつけ作業の効果が顕著であった。またその長所は、作業が簡単で早く、正確性に富むという点であった。柄合わせについては、反物の柄一型をデジタルカメラで撮影して入力する煩雑さはあるものの、裁断例 17 種の柄の良否をスピーディに検討でき、各々の裁断例について布の前後、左右、表裏など柄合わせを画面上で入れ替えることも可能で、好ましい柄合わせをプリントアウトできるものであり、授業への展開にも効果がみられた。